

捕獲：担い手と令和5年度の結果

飯館村鳥獣被害対策実施隊

皆さんは、飯館村に鳥獣被害対策実施隊（以下、実施隊）という組織があることを知っていますか？鳥獣被害対策の一つとして重要である、捕獲作業に主に従事されている方々です。令和6年4月4日に委嘱状交付式や出発式があり、今年度は24名の方々が実施隊として活動されます。捕獲などの作業だけでなく、月1回の定例会があり、捕獲による被害軽減を目指し、村の担当者と様々な相談等を行っています。なお、この定例会には、福島県避難地域鳥獣対策支援員も出席してもらい、調査結果等の情報提供をしています。

実施隊の
主な活動内容

- 捕獲 ▶ わなの設置、見回り、捕獲個体処理
- ニホンザルなど追い払いのためのパトロール
- 定例会（月1回）



綿津見神社での出発式



射撃訓練を行い技術向上に努めています

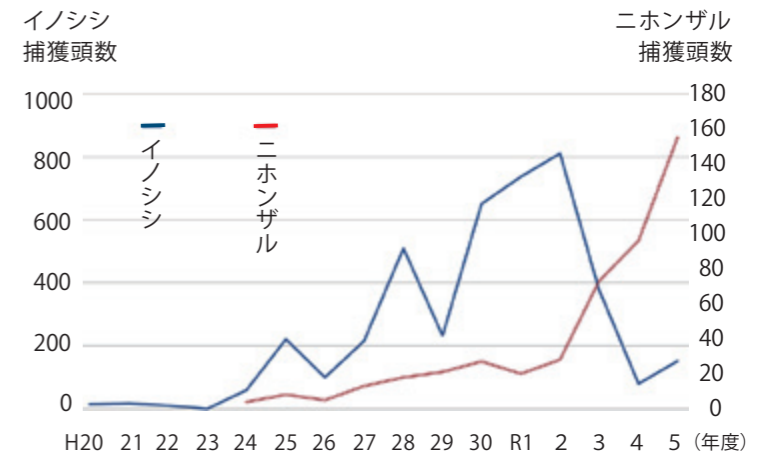
令和5年度捕獲結果

実施隊は、イノシシ、ニホンザル、ハクビシン、アライグマ、タヌキ、カラスなどを対象に捕獲を行っています。令和5年度は、イノシシ151頭、ニホンザル155頭を捕獲しました。

イノシシの捕獲頭数は、一時期より減少していますが、昨年度の80頭から比べると増加しており、生息数が増えている可能性があります。ニホンザルの捕獲数も増加していますが、こちらは生息数が増えたというより、捕獲の取り組みが推進されたためと考えられます。

どんな動物も捕獲だけで被害を減らすことは難しいです。皆さんも放任果樹や収穫残渣（ざんさ）などの餌になるものを減らすなど、少しずつでも取り組んでみましょう。

イノシシとニホンザルの捕獲数推移



イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員
鉄谷 龍之 さん
平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、同5年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

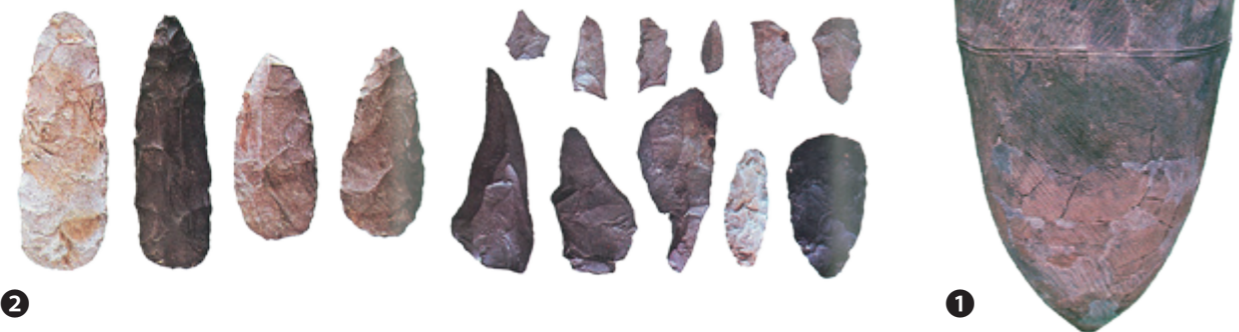
紀元前の昔から 飯館村の考古資料

歴史の散歩道

参考・写真転載：飯館村史第1巻 第2巻
参考：飯館村村勢要覧合併40周年記念誌

飯館村では、先土器時代（旧石器時代）から縄文時代の遺跡や考古資料が多数発見されています。先土器時代とは、人々が石や木で作った道具を使って狩や漁をしたり、植物や木の実を採集したりして暮らしていた時代で、非常に寒い気候（氷河期）にあったと言われています。縄文時代は紀元前1万3000年頃から約1万年以上続いた時代で、作られた土器の特徴などから草創期・早期前期・中期・後期・晩期の6期に分けられます。飯館村では今から約1万3000年前、先土器時代のナイフ形石器が「大倉松ヶ平A遺跡（大倉地区）」から出土。「大坂遺跡（草野地区）」では同時代末期から縄文時代早期のものと思われる大形打製石斧が出土しています。一方、「赤石沢遺跡（前田・八和木地区）」では約8000年前の縄文時代前期の地床炉（窪みをつけた簡易な炉）4基が出土。縄文時代中期の集落跡「上ノ台A遺跡（大倉地区）」では複式炉（火を焚く場所が複数ある炉）を持つ堅穴住居が数多く発見されています。

これら多数の遺跡や資料から、この地に非常に古い時代から人の営みがあったことが分かっています。また、縄文時代の遺跡が100か所以上発見されているのに対して、弥生時代の遺跡は「岩下A遺跡（大倉地区）」の水田跡のみ（令和6年4月現在）です。当時の農耕技術による食糧生産を中心とした弥生文化を、冷涼な気候のこの地で受容することが困難だったのではないかと考察されています。



② 大坂遺跡から出土した石器群の一部で、石斧、削器、剥片。大坂遺跡の大形打製石斧は全面打製で、部分的にも磨いた跡がないという特徴を持っています。
① 滝下遺跡（前田・八和木地区）から出土した縄文早期の「条痕文尖底土器」。底部を地面に突き刺したり石で囲んだりして煮炊きをしたと考えられています。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

交流センターでは、利用者の方から図書購入のリクエストを受け付けています。気になる本があれば、ぜひリクエストしてみてください。



「100年ひざ」 巽一郎 著 サンマーク出版

あなたはひざに痛みがありますか？ひざが痛む人も、そうでない人も手に取って読んでほしい1冊。どうやら人は自分自身で治す力を持っているようです。自分の足でずっと歩くためにこの本を読んで、ひざを長持ちさせましょう。



「むげんことわざものがたり」 大串ゆうじ 作 偕成社

本を開けばことわざと慣用語が無限に続いていくコミカルな絵本。見ただけでその言葉の意味が分かる「なるほどな！」と思わされる1冊。思わず声に出して読みたくなりますよ。